

自分史
坂本 拓也(さかもと たくや)

生年月日:1989年2月24日

血液型 :O型

性格 :マイペース、1人っ子でこだわりが強い

好きな食べ物:グラタン

嫌いな飲み物:牛乳

【家族構成】

■父 56歳 坂本 利光

父は20歳の時に父親となり、もともと料理人を目指して修行をしていましたが、私の誕生をきっかけに「大同テクニカ」に転職し、サラリーマンの道を選びました。

幼少期からとても厳しく、亭主関白な父親で、父の機嫌を伺って生活をしていました。その父の影響なのか、空気を読んで話すことが身につきました。

父は、頑固で負けず嫌いな性格です。私がいじめられていることを知った時には、なぜか私を叱り、「今すぐそいつを殴ってこい！」と家から追い出すほど、感情の強い人でもあります。一方で、人情に厚く、人を喜ばせるのが大好きな一面もあります。特に「食」へのこだわりは強く、「お腹が減っている人にはまず食わせろ」という考えを常にもっていました。

なので、父の会社の後輩や私の友達が、自宅にいつも遊びに来てご飯を一緒に食べることが坂本家では当たり前です。父は高知県（四国）で生まれ、愛知県半田市で育ちました。実家が貧しく、食べ物に困る経験をしていたこともあり、「食の大切さ」への想いは人一倍強かったのだと、後になって聞かされました。私も、父の影響で食へのこだわりが強いです。

■母 58歳 坂本 みゆき

母はとてもおおらかな性格をしています。冷静でとてもコミュニケーション能力の高い母親だと感じます。母親は、話がうまく、人を引き付ける力をもっています。私は、誰とでも仲良くなる母親を見て育ちました。母の地元は、新潟県柏崎市出身で、地元から離れて暮らしているのに、たくさん友人が周りにいたことを覚えています。

母からは、人の話をきいて、楽しく会話することの大切さを学びました。

母は、いつも笑顔で、亭主関白な父を手のひらで上手に転がす人です。母は、父と違い料理がとても苦手で、父に怒られていました。そのおかげかはわかりませんが、今では、母の料理はとても美味しいです。特に、母のつくるグラタンは大好物です。新潟県柏崎市の実家に遊びに行くと、冬は雪がすごく、玄関から出られず2階から出入りをしていました。また、新酒の時期になると、久保田酒造に行き、家族で試飲会に参加していたことを覚えています。

蔵から出る新酒はのど越しが良く、そして風味が最高です。新潟県は海鮮も美味しく保存を目的とした食事が多いため、梅干しや焼きじゃががとてもしゃっぽいです。

■妻 36歳 坂本 ゆい

妻との出会いは高校生の頃、友人の紹介がきっかけでした。最初の印象はお互いにあまり良くなく、「合わないかも」と感じていましたが、毎日メールをやり取りする中で私の方が惹かれていき、猛烈なアプローチの末、付き合うことになりました。その後、10年間の交際を経て結婚に至りました。妻は身長が低く、かわいらしい雰囲気のもち主です。

妻は、子どもが大好きで、今は保育園で働いています。妻の良い所は愛情深い所です。誰にでも、優しく愛情を向けることのできる妻です。妻を見ていると、人に優しくすることで周りから人が集まつて来ると感じます。妻のように周りから愛される存在になりたいと努力をしています。

妻は、私のことを「ギリギリにならないと行動しないタイプ」と言う一方で、「いざという時には頼りになる存在」とも言ってくれます。食へのこだわりはあまりなく、「白ご飯と少しのおかずがあれば良い」と話し、好きな食べ物を聞かれると迷わず「白米」と答えるほどご飯が大好きです。夫婦の間では、将来子どもができたらどのような育て方をしたいか、そのような話をしています。日常の中にあるこうした何気ない会話や時間が、私にとってとても大切なものです。

■愛犬 4歳 大福

大福との出会いは4年前の常滑のイオンで出会いました。妻の実家で飼っていた愛犬が亡くなり、悲しみにくれていた時に、立ち寄ったペットショップで亡くなった愛犬に後ろ姿がそっくりな犬を発見してしまい、思わず抱っこしていて気付いたら家に連れて帰っていました。私たち夫婦の間に子どもがいないので、我が子のかわいいです。寝顔やおやつをあげる時などとても可愛く感じます。ですが、あまり家にいない私より、毎日家にいて愛情を注いでいる妻になっています。愛情は注ぐ量も大切ですが、注ぎ方も大切だと感じます。これはコミュニケーションの取り方だと学びました。このような経験からも、私は、コミュニケーションの取り方や質にこだわるようにしています。

また、食い意地がすごく、甘やかされたのもあり、人のご飯は横取りしてきます。マクドナルドのナゲットが大好物で、私が食べているとよだれを流しながら待つ姿は、とても愛くるしいです。また、とても活発な性格なので、最近ではフリスビー犬を目指して訓練中です。

【自分史】

■誕生～幼少期

1989年2月24日、新潟県柏崎市に坂本家の長男として誕生しました。父の仕事の都合で、生まれてすぐに愛知県半田市へ引っ越しました。坂本家にとって初めての子どもということもあり、たくさん甘やかされて育てられたようです。

小さい頃は「むちむち体型」で、腕のシワの間を洗うのが大変だったと母から聞きました。当時は保育園に預けられなかったため、父方の祖父母に預けられて育ちました。ただ、母と祖父母との関係があまり良くなかったため、母が仕事を辞めて父の社宅がある知多市へ

引っ越すことになりました。

夜泣きも少なく、手がかかるない、お利口な子どもだったようです。3歳頃、ぐずると沢庵をしゃぶって落ち着いていたというエピソードも残っています。とにかく食べることが大好きでした。

■幼稚園

知多市にある「雅美幼稚園」に入園しました。社宅の近くだったこともあり、同じ団地に住むお友だちと一緒に通っていたそうです。女の子のお友だちが多く、特に「おままごと（日本料理屋さんごっこ）」をしていた記憶があります。

とても気弱な性格で、友だちに気を遣って、自分の大事にしているおもちゃをあげてしまい、とても落ち込んだことを覚えています。また、運動がとても苦手でした。特に、走ることが苦手で、徒競走ではいつも最下位でした。今でも、人に強く発言することが苦手で、気を遣ってしまう傾向にあります。

不安や緊張をすると、とにかくお漏らしをしました。当時は、トイレに行きたいと言うことが恥ずかしいことだと思っていました。

■小学校

知多市立旭東小学校に入学しました。周囲は田んぼに囲まれ、自然豊かな環境で、毎日泥だらけになって遊んでいました。社宅には同年代の子どもも多く、「いこい屋」という駄菓子屋でつけ払いをして、お菓子を買って遊ぶのが日課でした。特に、遊んでいたのは「よっちゃん」という友だちで、ハイパーヨーヨーやミニ四駆に夢中でした。

小学校3年生の3学期、両親が半田市に家を建てたことで「横川小学校」へ転校しました。不安でいっぱいでした。最初こそ周囲は話しかけてくれましたが、人見知りが激しくうまく馴染めませんでした。転校をしたことで、いじめられることが増えました。田舎から引っ越しをしたので、田舎者とばかにされたり、靴を隠されたり、下敷きを折られたりしたことを覚えています。その時に感じたことは、ばかにされる辛さと、人には、優しくしないといけないということです。その経験から、自分がばかにされることが嫌いで、人の意見を聞き人に寄り添うことを心掛けてきました。この時から、困っている人に声を掛けることができる人になったと思いません。

私にも、友達ができるきっかけがありました。4年生の時に、家の隣の隣に同級生が引っ越してきたことです。通学が一緒で、すごく気さくな同級生だったこともあり、すぐに仲良くなることができました。

そこで出会ったのが野球でした。今まで、まともにスポーツをやったことがなかった私は、同級生とキャッチボールをするのがとても楽しかったことを覚えています。また新しい家族、犬のさのすけが坂本家にやってきました。ハスキー犬でとてもかわいらしい愛犬です。

さのすけが坂本家に来たきっかけは、私の誕生日プレゼントです。ハスキーですが、子犬の時は小さく、小学生の私でも抱っこができる大きさでした。さのすけは、足がとても大き

く、ブリーダーさんから「この子は大きくなるよ」と言っていた通り、3か月で、当時の私の身長を超える大きさになりました。この頃は父か母が散歩に行ってくれていました。兄弟がいない私にとって、弟ができた感覚になり、とても喜んだことを覚えています。

5年生になり、父と母親が共働きになりました。

父は工場で勤務をしていて、母は介護職員として働いていました。両親が共に交代勤務になりました。この頃から、さのすけの散歩に1人で行くようになりました。初めは大きなさのすけを散歩するのが大変で、たくさんケガをさせられたことを覚えています。また、父と母が家にいることが少なかったので、この頃から、学校が終わると寄り道もせず家に帰り、洗濯物をしまい、ご飯を炊いて、お風呂掃除をしてから遊びに行く習慣になりました。

6年生までは、ほとんど変わらない毎日をすごしましたが、さのすけの散歩に変化が出てきました。今までは歩いて散歩をしていたのですが、さのすけのリードを自転車に括り付けて爆走していたことは、とても良い思い出です。6年生ということもあり、ご飯をつくることを覚えました。この頃から、匂いを嗅いで味付けをすることを身につけました。また、実家の隣に、父の妹夫婦が引っ越しをしてきました。従兄弟もいて、両親が夜勤の時にはお泊まりをさせていただきました。叔父と叔母は、私のことを実の息子みたいに可愛がってくれました。小学生時代を振り返ると、とても厳しい父親のおかげで、色々なことを1人でやれるようになりましたが、反面とても寂しがり屋になったなど感じています。なにをやっても当たり前で、あまり褒めてもらはず、拗ねていたことを覚えています。この頃から、従兄弟の面倒を見るようになりました。この経験から、後輩や部下の面倒見が良いと言われることが増えました。

■中学校

中学校に入学して、念願だった野球部に入りました。父からは「陸上部に入れ」と言われましたが、「どうしても野球がやりたい」という気持ちが強く、初めて父に反抗して自分の意思で野球部に入部しました。

当時は運動経験もなく、運動が苦手な私は、キャッチボールや打撃練習には加われず、毎日ひたすら走る日々を過ごしました。陸上部以上に走っていた自信があります。そのような中、野球経験者の同級生たちがボールを使った練習をしている姿を、とても羨ましく見ていましたのを覚えています。

中学1年生の時に、永谷君と出会いました。永谷君は野球経験者で、初めは、私のことをバカにしてきたので、印象は最悪でした。ですが、この永谷君との出会いが、私の人生を大きく変えることになります。野球未経験で、基礎練習しかしてなかった私に、自主練習に誘ってくれました。永谷君の父が、少年野球のコーチをしていたこともあり、この頃から野球がとても楽しくなってきたことを覚えています。

中学校2年生になり、真面目に基礎練習と自主練習を頑張ったおかげで、やっとボールを使った練習に参加することができました。この頃になると、学校が終わって永谷君の家で自

主練習をして、家に帰るといった生活になりました。また、家族ぐるみで旅行に行くようになり、隣に住んでいる叔父叔母も、永谷君と家族みたいに接してくれたことを覚えています。

私を、明るく前向きに変えてくれたのは、友との出会いでした。そして、諦めずに練習し、苦手なことに挑戦することで何かが前向きに変わることも学びました。人は、環境によって変わることができます。私は、この経験から自分が周りを明るくしようと心掛けています。また、挑戦することの大切さを、伝えていきたいです。

野球以外では、半田市の亀崎港でのロケット花火遊びも印象的でした。空き瓶に大量のロケット花火を入れて爆発させたり、ピンポン玉を燃やして炎の強さに驚いたり、手づくりの360度ロケット発射台をつくってはしゃいでいた日々も、忘れられない中学の思い出です。

中学3年生では、野球未経験の部員として唯一のベンチ入りと、公式戦出場を果たすことができました。野球に夢中になりすぎて、正直、勉強はほとんどしていませんでした。

引退後、「高校でも野球を続けたい」と強く思い、初めて本気で勉強に向かいいました。志望校は地元の「半田工業高校」でした。しかし、今まで勉強してこなかった私は、どのように勉強するのかわかりませんでした。

父に「塾に通いたい」とお願いしましたが、「今まで勉強しなかったのが悪い」と言われて、塾に通うことができませんでした。そのような中でも、志望校に行きたい気持ちは変わらず、学校の先生にお願いをして勉強を教えていただきました。

ですが3年間勉強を頑張ってきた子たちには追い付けず、志望校は不合格となりました。公立高校しか行かせないと父に言っていたこともあり、とても落ち込みました。ですが、高校野球がやりたかったので、号泣しながら父に「高校野球をやらせてください、必ずレギュラーになるので」と土下座をし、私立高校に入学することを許していただきました。

■高校

私立名古屋工業高校機械科に入学しました。

男子校と知らずに入学して、入学式の時に、先生に「女子はいないのですか」と質問をして恥ずかしい思いをしました。この時は、とても恥ずかしい思いをしたのですが、同級生にも男子校だと知らずに入学してきた子が多く、クラスで人気者になりました。高校野球がやりたくて入学したので、もちろん野球部に入部しました。初めての硬式野球で、とても苦戦しました。硬式ボールは、軟式ボールと違い、グローブでボールを取ってもバットでボールを打っても痛いという感覚で、慣れなくて苦労をしました。ですが、練習は嘘をつかないと思うこともあります、あれだけ痛くて怖かった硬式ボールも、慣れてくると、普通に感じるようになりました。毎日やることによって、身体が覚えてくれた証だと感じました。

真面目な性格を評価していただいたのか、高校1年生からレギュラーになることができました。それと同時に、上級生からのいじめが始まりました。人生2度目のいじめで、人への不信感を抱くようになりました。練習後のグランド整備、片付けを1人でやらされることは当たり前、プレー中に起こる上級生からの野次はすごかったです。この頃から、自分がやられて嫌なことは人にはしないと思うようになりました。野球は実力社会だと思っていた

のでプレーで見せれば良いと、ポジティブに捉えて頑張りました。そうすると、だんだん周りが認めてくれるようになりました。

そして高校2年生ではキャプテンになり、チームをまとめる存在になりました。キャプテンでは、多くのことを学ぶことができました。チームをまとめることは大変で、練習は誰よりも全力でやらないといけなく、遅刻や休むなんてもってのほかといったことを学びました。常に人から見られていることを意識して、私についていきたいと思ってもらうことがとても大事だと感じました。

この頃、野球の試合中に全治3か月の骨折をしてしまい、チームから離脱することになってしましました。日々頑張ってきたこともあり、同級生から、坂本がいなくてもちゃんとしようと言われた時は、本当に嬉しかったです。この時に、仲間を信じることの大切さを感じました。普段は反抗的な仲間でしたが、本当に困った時は、仲間が助けてくれることを学びました。

そして高校3年生、最後の大会では、強豪瀬戸高校にコールド負けをし、あっけなく終わりを迎えました。この時は、本当に悔しくて涙が止まりませんでした。監督から、最後の言葉で「本気でやってきたから本気で泣けるんだ、これから的人生、本気で泣けるくらいたくさん努力をしなさい、必ず勝利の涙を流せる時がくる」と言っていただいた時は、感動したこと覚えています。この経験から、努力をすることの大切さと、仲間を信じることの大切さを学ぶことができました。

そして、就職活動が始まりました。周りの同級生は、次々と就職が決まっていく中、私に求人が回ってこない日々を過ごしていました。理由がわからず、担任の先生に相談したところ、「坂本は進学で出ているぞ」と言われて驚愕したことを覚えています。私は、就職で出したのですが、監督により進学に変えられました。

この時、監督に大学で野球をやってみないかと言われて、岐阜県の中京学院大学の合同練習会に参加することになりました。

私は、就職を希望していたので、しぶしぶ行ったことを覚えています。しぶしぶ行った練習会で、合格をいただくことになり、大学で野球をやらないかと言われた時は、断るのが本当に大変でした。ですが、私は、私立高校に通わせてくれた両親に迷惑をかけたくなかったので、就職したいと監督に言って、就職することを決めました。

この時、進路指導の先生が、「坂本のために求人を取っておいた」と言っていただき、住友軽金属工業株式会社と三菱自動車株式会社の大手企業の求人を残してくれていたことによても感謝をしました。鉄鋼関係の仕事に就きたかった私は、住友軽金属工業株式会社を選択しました。学力のない私は、周りから受からないだろうと言われていましたが、合格することができました。

高校生活を振り返ると、色々と学ぶことができました。真面目に努力をすることで、たくさん的人が助けてくれることを学び、そしてかけがえのない、大切な仲間をつくることができました。自分の選択に後悔はないのですが、あの時、大学進学をしていたら、どのような

人生になっていたのかは気になります。

■社会人

高校卒業後は、住友軽金属工業株式会社に就職しました。1年目は、研修を受ける日々を過ごしました。配属先が決まり、ビレット鋳造工場に配属され、先輩から「1番過酷な現場に行くね」と言われて絶望したことを覚えています。配属後は、毎日アルミを溶かして固める作業をしました。700度を超える溶けたアルミを目の前に作業をしていて、夏には、全身が痙攣しながら働くようなとても過酷な現場でした。こんな辛い思いをして働く必要があるのかを、考えることも多くありました。ですが、高校生活で学んだ、真面目に努力をすれば認めてもらえるという気持ちを思い出し、真面目に働きました。その中で順調に体重も増えたので、向いていると思う時もありました。

住友軽金属工業株式会社で学んだことは、コミュニケーションの大切さです。上司から、「ばかとは話しができない」と言われたことがあります。何度も同じことを訊いてしまったことで、ばかにされ、仕事を教えてもらえたこともありました。ですが、諦めずに、ばかにされながらも根気強く上司に話かけたことにより、最終的には仕事を教えてもらえるようになりました。

また、暑い現場作業で、上司は休憩をしているのに、後輩は休憩をしたらダメと言われたことで、私はそのような上司にはなりたくない、強く思うようになりました。

「自分は良くて人はダメ」。この考え方が嫌いで、私にとってとても大切な言葉になります。

20歳の時に、地元の消防団に入団しました。消防団では、消防技術向上のため、操法大会が行われます。早朝5時から地元の小学校に集まり、練習を行います。この頃は、交代勤務をやっていて、あまり参加できないことが多く、選手に選ばれなくて悔しい思いをしたことを覚えています。ですが、22歳の時に選手に選んでいただきました。この時は、入賞もできず、悔しい結果に終わってしまいました。練習や準備の大切さを学ぶ、良い機会になりました。翌年も選手に選ばれて、今年こそは入賞と張り切って練習をしました。そして入賞と、個人に与えられる個人賞をいただくことができました。たくさんの方からの祝福を受けたことを覚えています。

本物の火事場に行くことがありました。消防団の消防車に乗り、現場に向かった時には大きな火事となっていて、放水をして鎮火させました。鎮火後に屋根を壊す作業を手伝うことになり、2階に登り屋根を壊していると、足場が抜けて、1階に落下して腰を打って動けない所に残り火が引火して、小さな爆発が起こったことを鮮明に覚えています。地域貢献は、色々な形があると思います。消防は、危険ですが、とてもやりがいのある仕事だと感じました。そして社会人9年目にもなり、高校生の時からお付き合いをしていた、彼女(妻)から「いつ結婚するの、しないなら別れて」と言われたことがきっかけで、結婚することになりました。

住友軽金属工業で務めること 11 年目に、自分の将来を考えることが多くなりました。このまま今の会社で働くことに不安を感じ、転職活動を行い、今までのキャリアとは関係のない、ソニー生命保険株式会社に、2018 年 10 月 29 歳で、ライフプランナーとして入社しました。ソニー生命保険株式会社を選んだ理由は、保険加入で自分自身が損をした経験があり、保険加入で損をする人を減らしたいと思い、この思いに 1 番共感ができたのがソニー生命保険株式会社だったからです。ですが、転職活動は簡単ではなかったです。自分の両親や妻の両親からも反対をされて、妻だけが「拓也の人生なのだから頑張って挑戦してみたら」と言ってくれました。妻のためにも、1 年目の新人だけが目指せる新人賞を取ると心に決めて転職しました。

1 年目は、友だちや家族に営業をかけて、無事新人賞に入賞しました。ここまで道のりは楽なものでなかったです。保険という言葉を聞くだけで話しを聞いてくれなかつたり、友だちと連絡がつかなくなったり、前職の同僚からも電話してくるなと言われたり、なぜ転職したのか、わからなくなるくらい落ち込みました。

それでも、新人賞に入賞を決めることができたのは、私を信じて保険を預けてくれる、たくさんの友人やお客様のおかげだったと思います。入賞を決めた時は、妻と一緒に泣きながら喜んだことを覚えています。初めて、自分で勝ち取った勝利だったと思います。この時、高校の監督の言葉を思い出しました。「本気でやってきたから本気で泣けるんだ。これから的人生本気で泣けるくらいたくさん努力をしなさい、必ず勝利の涙を流せる時がくる」という監督の言葉を痛感する出来事でした。

ですが、2 年目から 4 年目までは、仕事がうまくいかなくなりました。ソニー生命保険株式会社のライフプランナーが続けられないのではないかと思う程に、成績が低迷しました。これではダメだと思い、トップ営業の先輩に教えてくださいと頭を下げて、やり方やあり方を教わり、何とかライフプランナーとして食べていけるようになりました。

この時の先輩の言葉で、今も支えになっている言葉があります。「自分の利益を求めるに誰も寄ってこない、人のために行動をして、自分の信念をお客様に伝えなさい」という言葉です。成績が低迷すると、自分の利益を考えることばかりしていた自分が、とても恥ずかしくなりました。その時から、お客様のため、人のためになる営業をしたいと強く思い、営業をしています。

お客様からは話が面白い、説明がわかりやすいと言われます。自分の経験で、理解力のない私でもわかる説明をしようと心掛けているからだと思います。また、共に時間を過ごしていただくので、楽しくお話をすることを心掛けています

今では、所長の話もいただけるけるくらいに仕事ができるようになりました。

今までの社会人経験を振り返ると、過酷な現場で働いていたことで身に付いた忍耐力と消防団でのチームワークやソニー生命保険株式会社での経験が今の自分をつくっています。

色々なことを、乗り越えるためには、1 人の力では無理で、周りと助け合い、支え合って行動することが大切だと感じています。

また、社会人になってからは、コミュニケーションの大切さと、人の意見を聞き素直にすることも学びました。そして、わからないことは素直に聞くことも大切だと思います。
今でも大切にしている言葉があります。「聞くは一瞬の恥、聞かぬは一生の恥」です。
人から話を聞くことで学び、自身の成長につながります。多くの方に支えられていることを学び、今度は、私が誰かを支える存在になりたいと思います。

【JC史】

■2022年 オリエンテーション実行会議 大和塾（入会）

入会に至った経緯は2021年にお会いした、水谷先輩の誘いからでした。よくわからず入会をしたので、1年間在籍してやめようと思っていました。人見知りなのもあって、周りとの接し方がわからず、懇親会の参加も苦手で、積極的な塾生ではなかったと思います。

ですが、塾長や塾幹事、塾スタッフ、同期の仲間がとても暖かく、参加するたびに楽しいと思うようになりました。また、塾事業では、ジョブフェスタを企画から運営まで皆で取り組むことで、強い絆をつくることができました。

また、損得関係なく、真摯に向き合ってくれる大和塾長の姿はとても素晴らしい感じました。3年は続けるようにと言った大和塾長の言葉を覚えています。3年やったらJCのことがやっと少しあかるようになってくるからと言っていました。当時、その言葉をあまり真摯に受け止めていなかった自分がいて、今となっては反省しています。先輩や年上の方の話は、真摯に受け止めて実践していくべきだと感じました。

今までの人生では出会えなかった人たちとの交流は、私の人生に、大きな影響を与えてくれたと思います。色々な人の価値観や考え方、素晴らしい、自分にはない価値観を取り入れることができました。

■2023年 インクルージョン推進特別委員会

自動配属で、インクルージョン推進特別委員会に配属されました。自動配属で知り合いもない、なにもわからない、人見知りで話せない、やめようと思ったことを覚えています。このような私でも、参加をすると、皆が暖かく迎えてくれるのは、嬉しかったです。やめようと思っていた私に対して、担当副委員長の杉野副委員長が熱心に誘っていただき、参加した時には、笑顔で迎えてくれたことはとても印象的です。

また、次世代リーダー育成会議に参加させていただき、選挙のお話を聞いて、選挙について、興味をもちました。委員会から選挙に出る人も決まってないのに、服部特別委員長に選対長をやりたいです、と言った時は、びっくりされたことを覚えています。

私の中で、大きく心境が変わったのが選挙です。前畠候補者と福樂候補者が立候補されました。私は、福樂候補者の選対長を受けさせていただきました。

選対長をやりたかったので、立候補を決められた候補者に感謝をしました。

8月の1か月間、全力で取り組もうと思いました。

選対長は、なにもわからない私にとって、とても刺激的でした。選挙は人の本質を出す1

か月だと感じたことを覚えています。

日々追われるコーカス原稿や来訪者の質問など、その中で、次のリーダーになるために必死になって立ち続ける姿は、本当にかっこ良いと思いました。

そして、理事訪問は、私にとって多くの学びの機会でした。名古屋青年会議所は、やればやるほど自分の成長があると感じました。今でも自動配属がインクルージョン推進特別委員会で良かったと思います。

■2024年 モビリティ社会探求委員会

初めての副委員長を受けさせていただきました。副委員長を受けた理由は、福樂委員長からのお誘いがあったからです。たくさんの理事の方からお誘いがありましたが、福樂委員長から多種多様なリーダーの形について学びたいと思いました。

これからたくさんの学びがあると思い、わくわくしたことを覚えています。

ですが、募集担当になり、拡大の難しさに直面し、心が折れかけました。委員会一丸となってやりきった時は、とても達成感がありました。

募集は、名古屋青年会議所を継続していく上で、とても大切な活動だと、全会員が同じ意識をもって取り組まなければいけないということを、委員会の方にお伝えして、委員会として達成することができました。また、レゴランドを貸切って行った例会は、最高の学びになりました。この名古屋青年会議所でしかできないことを、成し遂げたと思います。

準備はとても大変で、挫けそうになりましたが、委員会として成功させるという共通認識をもつことによって、委員会としての動き方や、まとめ方など多くの学びをいただきました。参加された方のたくさんの笑顔は、私をとても幸せな気持ちにしてくれました。

一方で、この時の態度で、とても後悔していることがあります。それは、多くの学びや経験をいただいていたにも関わらず、委員長に対して反抗的な態度を取ってしまったことです。覚悟をもって理事委員長になられたことに、尊敬をし、委員長の行動の意味をもっと考えるべきだったと反省しています。福樂委員長は、すべてに理由があって、無駄なことはないと教えてくれました。「リーダーシップの形は1つじゃない」ということを委員長が背中でしっかりと見せてくれたことは、良い学びとなりました。

■2025年 財務委員会／オリエンテーション実行会議 (LOM)

塾の時からお世話になっている、河本委員長のもとで、筆頭副委員長を受けさせていただきました。そして、河本委員長のご指導のもと、自分の発言に責任をもつことや、タスク管理など、多くの学びをいただいております。特に、タスク管理は今でも苦手です。期限内にやることや、同時進行で行わないといけないことなどあり、自分の要領の悪さが嫌になることもあります。また、自分の興味のないことを後回しにする点も、自分で改善していくかといけません。今では、タスク管理アプリを使用することや、期日を自分で決めて、行動するように心掛けています。そして、人の時間をいただいていることに、感謝をして、行動することを心掛けていきたいと思います。

委員会では、オリエンテーション実行会議の副議長であることを理解していただき、活動

しやすい環境をいただいております。本当に優秀な副委員長にも恵まれ、委員長が掲げる、『共に学び、想いをもって高め合う財務』をもとに活動させていただいております。これから未来のリーダーとして活躍して行く塾生に、少しでも語れるよう、背中を見せていく決意で、立候補させていただきました。私も新たな挑戦をして、次のステージへと進み、皆様と共に想いをもって成長できるように、全力で選挙に立ち向かっていきたいと思っております。